

平成 21 年 5 月 30 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度  
 課題番号：18520045  
 研究課題名（和文）十二世紀末までの日本仏教各宗にみられる新羅・高麗仏教に対する認識に関する研究  
 研究課題名（英文）The Study of Silla and Kkryo Buddhism in Japanese Buddhism Sects until the Late 12c  
 研究代表者 福土慈稔

研究分野：仏教学

科研費の分科・細目：

キーワード：日本仏教・新羅仏教・高麗仏教・章疏目録

## 1. 研究計画の概要

十二世紀末までの日本各宗諸師の著述にみられる新羅・高麗章疏の引用から、日本各宗の新羅・高麗仏教に対する認識、及び影響を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

本研究の基礎となる目録類研究に若干の時間がかかったが、その研究を土台として法相宗・三論宗における新羅・高麗仏教認識を明らかにした。

## 3. 現在までの達成度

目に見える研究成果としては、目録類・法相宗・三論宗の整理だけであるため達成度は 3 割程度のようなものではあるが、実際には天台宗・律宗・真言宗・華嚴宗に関しての著述整理も同時に行っているため達成度は七割程度である。

## 4. 今後の研究の推進方策

天台宗・律宗に関しては、それらの新羅・高麗仏教認識に関する成果を 9 月の学会で発表し、真言宗に関しては 10 月の学会で発表する予定である。その上で華嚴宗の新羅・高麗仏教認識をまとめ、報告書を作成する予定である。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

福土慈稔「十二世紀末までの日本各宗に於ける朝鮮仏教の影響について」(『身延山仏教学部紀要』8、身延山大学、2007 年)

福土慈稔「十世紀初までの日本各宗に於ける新羅仏教の影響について」(『身延論叢』12、身延山大学仏教学会、2007 年)

〔学会発表〕(計 8 件)

「韓国仏教研究に於ける日本仏教研究の重要性と問題点」(韓国仏教結集学術大会、韓国東国大学校、2008 年 5 月)

「日本三論宗と朝鮮仏教」(日本印度学仏教学会、2008 年 9 月)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

○取得状況(計 件)

〔その他〕